

令和3年度 学校評価計画書

重点目標に対する具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点 達成度判断基準	備考
重点目標1 「学びに向かう力（主体的に自分の頭で考える）」を育成する。				
① 「学びに向かう力」の育成のためには、「キャリア学習」を浸透させることが重要であると捉えている。組織的に3年間を見通した体系的な取り組みを行い、より多くの生徒が自己のあり方・生き方を考え、自らの意思で進路決定できるようになることを目指す。	探究企画室 各学年会	振り返りの機会や進路学習の機会は設けているが、形式的になりがちで、上手く機能していない部分があるため、改善を図る必要がある。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	
② 「学びに向かう力」の育成を最重要課題として捉え、「学力向上」を柱の1つとして作成された「学力ミニマム」を基に、教科会で指導内容を共有し、定着を徹底していく。各授業担当者は、研修や授業公開を通して授業改善に取り組み、各教科会においては、定期的に振り返りを行い、チームとしての改善策を検討していく。	研修企画委員会 教務部 各教科会	「学力ミニマム」が完成し、配付した。5教科主任会議の中で、「学力ミニマム」を基にPDCAサイクルを回し、定期的に改善を加えるよう指示が出され、5教科の今年度重点目標には、授業の振り返りと改善が盛り込まれている。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	
③ 各担任による生徒面談を抜きにして、「学びに向かう力」の育成を達成することはできない。生徒は定期的に目標決定と振り返りを行い、担任は生徒面談を中心に、繰り返し課題を伝え、助言するなど、生徒が「自分の頭で考える」力を育てていけるよう粘り強く指導していく。	各学年会 各担任	システム手帳の活用や生徒面談の充実に対して、各担任はその呼びかけに十分応えている。今年度より、その取り組みを組織的に行い、「面倒見の良い教育」をさらに充実させていく。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	
④ 初期指導の一環として、スタディサプリの導入や放課後指導の活用を、今年度から取り組むこととした。スタディサプリア補習とは異なる放課後指導が年間を通して利用されるよう、学年会や教科会へのこまめな働きかけを行い、生徒自らが学習に向かう体制づくりを目指す。	進学指導部 探究企画室	補習や土曜講座などの学習機会を設定し、生徒への積極的な働きかけはできていた。生徒自らが学習に向かう体制を作るには、様々な取り組みが効果的に進むよう教員からのアプローチを工夫しなければならない。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	
⑤ 各授業担当者は、生徒の実態を踏まえた授業のあり方を授業公開や研修などで研究し、改善を図るよう心掛ける。授業公開で教員が互いに刺激しあえるよう進めていきたい。また、オンライン学習（Find アクティブラーナー）の活用や予備校研修への参加など、教員一人ひとりの要望に応じた研修を選択できるよう、積極的に呼びかけを行っていく。	研修企画委員会 ICT委員会 総務部	例年、実施してきた授業公開は、コロナウイルスの影響により、前年度は実施できなかった。代替案として、オンライン学習による教師研修を実施することとなった。教員の学ぶ姿勢は年々向上しており、生徒にも還元されている。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	
重点目標2 「新学習指導要領」導入への研究・準備を進める。				
① 教員一人ひとりがカリキュラムマネジメントの意識をもち、本校の教育活動全般を見直し、教育課程に反映させていく。そのためにも、教育目標の実現に向けて、生徒や地域の実態を踏まえ、カリキュラムに対するPDCAサイクルを計画的・組織的に推進していかなければならない。	教務部 全教員	カリキュラムマネジメントに対する意識は、徐々に向上してきている。特に「新学習指導要領」については、内容が明らかになるにつれ、各教科会でも対応のための議論がなされている。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	
重点目標3 新しい時代に必要となる力の育成に向けて積極的に取り組む。				
① これまで以上にICT活用の研究・整備を推し進めていくために、今年度より新たにICT委員会を組織した。授業での活用や教員の研修については当然のことながら、「GIGAスクール構想」に対応していくための研究も同時に進めていく。	ICT委員会 情報教育部 探究企画室	コロナ禍に伴う休校への対応としてオンライン授業を実施することとなり、図らずもオンライン授業のシステムを構築することができた。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	
② 「総合的な探究の時間」を充実させるために、外部との連携は必要不可欠である。金沢工業大学や北陸大学との合同研究を核にし、さらに外部との連携を深め、探究型学習に積極的に取り組んでいく。また、3年間の探究活動計画もこまめに見直し、修正・改善を加えていく。	探究企画室 各学年会	今年度より「総合的な探究の時間」をカリキュラムに組み込み、高校3年間を見通した、個々の進路希望に沿う探究活動計画を作成した。外部機関との連携も含めて、充実した内容となっている。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	
重点目標4 英語4技能を強化するとともに、英検準2級以上合格者30%以上を達成する。				
① 英語4技能をバランス良く育成するための取り組みとして、継続的に外部検定試験の受験を勧めていく。昨年度に引き続き、具体的な目標として、「英検準2級以上の合格者30%以上」を掲げており、全教員が積極的に関わっていくために意思の統一を図った。	進学指導部 英語科	昨年度の英検準2級以上の取得者は3学年全体で23%であった。英検受験は学校をあげて推奨しており、英語4技能育成の重要性は、学校全体にも浸透してきている。	A：35%以上 B：30%以上 C：25%以上 D：25%未満	
重点目標5 働き方改革を推進する。				
① 経験豊富な教員はOJTの意識をもって若手の育成にあたり、若手教員は新しい風を職場に吹き込むことで、やがては「学校力（チーム力）」が強化していくと考えている。全教員が同僚性をもって勤務し、問題などには協働して対応するよう心掛けていくなど、日頃から積極的にコミュニケーションをとっていくことで働き方も変化していくと思われる。	全教員	社会変化への対応や保護者などからの期待の高まりなどを背景として、教員は多くの業務を抱え、生徒の人格形成に関わっていくという本来の使命に専念できずに、多忙感を抱いたり、ストレスを感じる者が少なくない。	A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：できなかった	